

2026 年 8 月 18 日

会 社 名 e B A S E 株式会社
(コード番号: 3 8 3 5 東証プライム市場)
本社所在地 大阪府大阪市北区豊崎五丁目 4 番 9 号
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 岩 田 貴 夫
問 合 せ 先 取 締 役 窪 田 勝 康
執 行 役 員 C F O
電 話 番 号 (06) 6 4 8 6 - 3 9 5 5 (代表)
U R L <https://www.ebase.co.jp/>

買い物データで“見えない在庫”がわかる情報処理システムの特許を取得

～ 冷蔵庫を開けなくても、食品・日用品の残量がスマホでわかる ～



eBASE株式会社（本社：大阪市北区 代表取締役社長 岩田 貴夫／以下、eBASE社）は、買い物データから家庭内の食品・日用品の在庫を推定する情報処理システムに関する特許を取得したことを発表いたします。本特許技術は、当社が提供するライフスタイルアプリ「e食住なび」において、「在庫推定機能」として実装予定のものです。

特許概要

- 登録番号 : 特許第 7900863 号
- 発明の名称 : レシート DB から消費量と在庫量推定システム
- 特許取得日 : 2026 年 7 月 28 日
- 特許権者 : eBASE 株式会社

➤ 1. 背景・課題

「冷蔵庫を開けたら、ビールがもう無かった」「まだ残っていると思って洗剤を買ったら、実はストックがあった」—こうした経験は、多くの方に心当たりがあるのではないのでしょうか。買い忘れによる二度手間や、逆に同じものを買ってしまう無駄な出費は、家庭にとって地味に積み重なるストレスです。

食品や日用品の在庫を把握する方法として、冷蔵庫にセンサを取り付けて庫内の中身を検知する仕組みがこれまでも用いられてきました。しかし、この方法では専用のセンサ付き冷蔵庫が必要になるうえ、パントリーや洗面所、収納棚などセンサを取り付けにくい場所で保管される食品や日用品については、在庫状況を知ることができませんでした。また、家計簿アプリなどで「何にいくら使ったか」は分かっても、「今、家に何がどれだけ残っているか」までは分からないという点も、見落とされがちな課題でした。

こうした「気づいたら切らしていた」「あると思って買い足してしまった」という日々の小さな困りごとを、センサのような専用機器を新たに導入することなく解消することが可能になります。

➤ 2. 特許技術の概要

本特許技術は、お買い物データ（POS 情報）と商品情報を組み合わせ、ユーザーごとに、商品のカテゴリ別の在庫量を理論的に算出する仕組みです。処理の流れは、大きく次の3つのステップで構成されています。

① カテゴリ別の消費推定量の推定

お買い物データ（POS 情報：商品の数量、販売日時など）と商品情報（カテゴリ、内容量）を用い、特定の期間における、カテゴリごとの購入量を取得します。この購入量は、商品の内容量と数量から算出します。所定の期間の購入量の平均値を求め、対象期間（所定の期間より短い期間）あたりの消費推定量として推定します。

② 在庫増減推定量の算出

対象期間における実際の購入量から、①で求めた消費推定量を差し引き、在庫増減推定量を算出します。

③ 在庫推定量の算出と蓄積

この在庫増減推定量を、連続した期間について順に加算していくことで、現在の在庫推定量を継続的に算出・更新します。

活用イメージ

例えば、ある利用者が、単品缶の ABC ビール（350ml）や、6 本パックの XYZ ビール（350ml×6）など、銘柄・容量の異なる複数のビール商品を組み合わせて購入しているとします。これらは商品情報を通じてカテゴリ「ビール」に対応付けられており、普段の購入量の平均から、対象期間あたりの消費推定量は 2,500ml 程度（350ml 換算で 7 本相当）と推定されているとします。ある週に、単品缶を 2 本、6 本パックを 1 パック購入した場合、実際の購入量は 2,800ml（350ml×2 本+350ml×6 本）となり、消費推定量 2,500ml との差である在庫増減推定量は+300ml となります。前の期間までの在庫推定量にこの増減分を加算していくことで、銘柄や容量の異なる商品を一つ一つ数えなくても、カテゴリ単位で在庫の状況を継続的に把握できます。

➤ 3. 技術の特徴・メリット

◎ いつものお買い物だけで、幅広い商品の在庫がわかる

冷蔵庫だけでなく、パントリーや洗面所などに保管されている食品・日用品についても、センサなどを新たに取り付けることなく、いつも通り買い物をするだけで在庫状況を把握できます。野菜や精肉などお買い物データ（POS 情報）に内容量が記録されていない商品についても、カテゴリごとの単位あたりの平均価格（例：牛肉なら 100g あたり 600 円など）をもとに価格から重さを逆算し、精度の高い在庫推定を実現します。

◎ 家族の買い物も、複数のお店をまたいでもまとめて管理

家族それぞれが別の会員証等で買い物をしている、世帯単位でまとめて在庫状況を把握できます。また、行きつけのスーパーとドラッグストアで会員カードや会員番号が違っていても、裏側で同じ人の買い物としてひとつにまとめて扱うため、お店をまたいだ在庫状況も途切れず把握できます。

◎ 推定のズレも上手に調整

計算上まれに在庫が「マイナス」になってしまうケースがありますが、そうした場合には、ビールとワインのように近い種類の商品カテゴリへ増減分の一部を自動的に振り分けることで、実態に近い形になるよう自動的に調整する仕組みも備えています。

➤ 4. 今後の展開

本技術は、ライフスタイルアプリ「e食住なび」の「在庫推定機能」として実装を予定しております。今後は、対応する商品カテゴリの拡充や推定精度のさらなる向上を進めるとともに、より多くのユーザーの日常生活の利便性の向上に貢献していきたいと考えています。

➤ eBASE 株式会社の概要

eBASE株式会社は商品情報に関わるデータベースソリューションパッケージソフトであるeBASEjr、eBASEstandard、SmalleBASEserver、eBASEserver等の幅広いラインナップにより、生産者・原材料メーカー、加工メーカー、卸会社、小売会社の業態や規模にフィットしたソリューションを提供することが可能な商品情報交換データベース分野のエキスパート企業です。eBASE社の各種パッケージソフトウェアはシームレスに連携やアップグレードが可能です。商品情報に関わる様々な業務アプリケーション（「MDM eBASE」、「PDM eBASE」、「FOODS / GOODS eBASE」等）との連携を高いコストパフォーマンスで実現します。eBASE社は様々な業界（食品、日雑、医薬、文具、家電、工具、環境、住宅、アパレル等）で培った商品情報交換ソリューションノウハウを「全体最適」の視線で継続提供いたします。又、パッケージソフトウェアビジネスに加えて、その商品情報コンテンツビジネスとして商品データプールサービス「商材ebisu（食材 / 外食 / 日雑 / 住宅 / 家電 / 文具 / 工具（小売版） / 工具（卸版）等）」や「マスタデータebisu」を提供しています。更にこれら「商材ebisu」データを活用した消費者向けアプリビジネスとして、あらゆる商品カテゴリを統合したライフスタイルアプリ「e食住なび」、「e食住カタログ」、「e食住ちらし」、「e食住ビジュアルレシート」、及び住まいの設備や家電の情報をまとめて管理できるアプリ「e住なび」、等、幅広く小売企業を経由して一般消費者ユーザーに提供しています。

➤ 本件に関するお問い合わせ先

eBASE 株式会社
TEL : 06-6486-3955 FAX: 06-6486-3956
E-mail : info@ebase.co.jp
URL : <https://www.ebase.co.jp/>